

<p>書名 項目</p>	<p style="text-align: right;">2 東書</p> <p style="text-align: center;">新編 新しい社会 公民</p>
<p>教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり</p>	<p>○我が国や国際社会が抱える諸課題について、現状と解決のための取組を取り上げて解決のためにできることを考えるようにしていることで、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことが重要であることを認識させるようになっている。</p> <p>○写真やイラスト、生徒が主体的に学習する場面の設定、日常生活に関連する話題などを多数掲載し、現代の社会的事象に対する関心を高めようとしている。</p>
<p>特色</p>	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <p>○見開き1単位時間を、興味・関心を喚起する導入資料→学習のめあてを示す「学習課題」→丁寧に分かりやすい本文・本文を補完する豊富な資料→学習内容をまとめる「確認」、という流れで構造化している。</p> <p>○探究に必要な技能を身に付ける「調査の達人」を設けている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○各見開きにある「確認」では、説明や要約などの短時間で取り組める言語活動が設定されている。また、小集団による話し合い学習などを想定した「公民にチャレンジ」が20ほど設定されている。</p> <p>○各章ごとに、章の導入とまとめがリンクした多様な言語活動が考えられている。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○「公民にチャレンジ・私たちの政治参加」では、中学校での取組を具体例にした社会参画のプロセスを明示している。</p> <p>○実際に社会参画をしている人々の「インタビューコラム」を掲載し、自らの在り方・生き方について考えるように工夫している。</p> <p><民主主義に対する理解を深めさせる工夫></p> <p>○「第2章 個人の尊重と日本国憲法」の導入とまとめに、アクティビティ「ちがいのちがい」を配している。12枚のカードを検討する際の資料も付されており、根拠に基づいた判断をするように工夫されている。また、ディベートでの取り組み方も示されている。</p>
	<p>資料</p> <p>○巻末には、統計・資料として年表形式の「現代社会の歩み」と「世界の現状」、日本国憲法をはじめとする28の「参考法令集」、「用語解説」、「さくいん」が掲載されている。</p> <p>○地理や歴史との関連を示す「分野関連マーク」や伝統と文化に目を向け尊重する態度を養うための「国宝・重文マーク」、「世界遺産マーク」を付している。</p>
	<p>表記・表現</p> <p>○文体は、敬体（です・ます体）を用い、重要語句は太字で示している。また、本文中に、前出・後出箇所を示すページが示されている。</p> <p>○資料には見開きごとのまとまりで通し番号が付けられており、対応する本文の上に当該の図番号を付すなど使いやすさに配慮している。</p> <p>○ユニバーサルデザインによる配色やレイアウトをしている。</p>
<p>総括</p>	<p>○対立と合意、効率と公正の見方や考え方について、これらを活用して考える活動が分野を通して行なえるよう、全体で17か所に「効率と公正のマーク」を付している。</p> <p>○終章の「よりよい社会を目指して」では、持続可能な社会の形成について、学習成果を生かして、環境、人権、平和、伝統文化などの多様な面から追究し、一人一人が考え、レポートを作成するよう構成されている。</p>

書名		17 教出
項目	中学社会 公民 とともに生きる	
教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<p>○新聞の活用の仕方や表現活動を中心としたテーマ学習を通して、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養おうとする学習を設定するなど、公民として必要な基礎的教養を培おうとしている。</p> <p>○教科書の導入の「公民の学習をはじめるにあたって」や各章の導入の「はじめに」を通して、現代の社会的事象に対する関心を高めようとしている。</p>	
特 色	内 容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <p>○見開き1単位時間では、左上に中心資料を配置し、キャラクターの問いから学習を展開していく形式をとり、「学習課題」も明示している。右下の「ふりかえる」のステップ1で基礎的事項の確認ができるように工夫されている。</p> <p>○「公民にアプローチ」では、新聞の活用の仕方を4ページにわたり示している。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○「ふりかえる」のステップ2では、社会的事象についての説明や話し合い活動が示されている。また、「読み解こう」では、資料を読み取り、考えを深めるための手立てが示されている。</p> <p>○「言葉で伝えあおう」では6つのテーマの言語活動に取り組むようになっている。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○「読んで深く考えよう」では、資料を読み深めていくテーマ学習を6つ設定している。</p> <p>○学習から興味や関心を広げていく29のコラム「公民の窓」や学習をさらに深めていく11のコラム「クリップ」が掲載されている。</p> <p><民主主義に対する理解を深めさせる工夫></p> <p>○「第2章 人間を尊重する日本国憲法」の中で「ともに生きる社会をみざす人たち」では部落差別やハンセン病を扱い、「犯罪の防止か、プライバシーの保護か」では監視カメラと肖像権やプライバシーの権利を扱うなど、深化の学習として設定されている。</p>
	資 料	<p>○巻末には、日本国憲法をはじめとする32の「参考法令集」、「用語解説」、「さくいん」、「欧文略称」が、本文中に年表形式の「日本と世界の歩み」が掲載されている。</p> <p>○見開き左下に「章タイトル」と右下に「学習パート」を示し、教科書全体における位置を明らかにしている。</p>
	表記・表現	<p>○文体は、敬体（です・ます体）を用い、重要語句は太字で、本文中に前出・後出箇所を示すページが示されている。側注解説で補足解説や語句の解説をしている。</p> <p>○資料には見開きごとのまとまりで通し番号が付けられており、対応する本文の上に当該の図番号を付すなど使いやすさに配慮している。</p> <p>○ユニバーサルデザインによる配色やレイアウトをしている。</p>
総 括	<p>○対立と合意・効率と公正に関わる学習では、マンションの駐車場問題についての事例を中心に学習を展開している。</p> <p>○終章では、「未来への私の約束をつくろう」をテーマに、これからの社会を築いていくために自分には何ができるのかを、考えさまざまな方法でまとめる学習が考えられている。また、行動計画を実践していくことも想定している。</p>	

<p>項目</p>	<p>書名</p> <p style="text-align: right;">35 清水</p> <p style="text-align: center;">中学 公民 日本の社会と世界</p>
<p>教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかわり</p>	<p>○各章の扉に、章と関連があり、生徒の関心を喚起する人物を取り上げ、その言葉や著作の一部を紹介することで現代の社会的事象に対する関心を高めようとしている。</p> <p>○考える力をはぐくむ契機となるような問いかけを多く配置することで、社会の諸問題に着目させ、自ら考えようとする態度を育てようとしている。</p>
<p>特色</p> <p>内容</p> <p>資料</p> <p>表記・表現</p>	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <p>○見開き1単位時間では、学習課題を「学習目標」として明示し、図表、資料、コラム、本文を活用しながら、学習課題を追究し深めていくという構成をとっている。</p> <p>○関連する資料や条文を紹介する「知識」やさらに説明する「補足説明」がある。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○学習に関連するテーマを掘り下げて解説した「深める公民」が11テーマ用意されている。</p> <p>○各章末のまとめの中に、各章のキーワードが示された「次のことばについて説明しよう」という学習が計画されている。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○「もっと知りたい公民」では、学習に関連するテーマを図版や写真を中心に解説していて、さらに興味や関心を広げ、社会を多角的に見るようにしている。</p> <p>○学習内容への理解を深めるために考えたり、話し合ったり、調べたりするための視点を示した「調査」が豊富に設定されている。</p> <p><民主主義に対する理解を深めさせる工夫></p> <p>○「第1編 私たちの生活と政治」の中で、冤罪から立憲主義を考えさせる「冤罪と日本国憲法—憲法とは何か」、さまざまな人権課題に触れている「平等権について考える」、具体例に学ぶ「社会権について考える」、国際化時代の人権を扱った「人権を守る心は国境をこえて」、が深化の学習として設定されている。</p> <p>○前見返しには、「現代の世界」、後見返しには、年表形式の「現代社会の動き」、巻末には、日本国憲法をはじめとする29の「参考法令集」、「さくいん」が配置されている。</p> <p>○見開きのおもに左右に本文を取り囲むように資料や注を配置し、シンプルな構成となっている。</p> <p>○文体は、常体（だ・である）を用い、重要語句は太字で示している。また、本文中に、前出・後出箇所を示すページが示されている。また、本文中に注を示す番号を付し、解説している。</p> <p>○図表・資料などを活用しながら展開できるように図番号を付している。</p> <p>○ユニバーサルデザインによる配色やレイアウトをしている。</p>
<p>総括</p>	<p>○対立と合意・効率と公正に関わる学習では、部活動の体育館使用の割り振りをどうするのかという事例を中心に学習を展開している。</p> <p>○終章の「国際社会を生きる」の中で「卒業論文を書いてみよう」という学習を設定している。持続可能な社会の実現をテーマに論文の書き方から発表までの学習の流れを示している。</p>

<p>項目</p>	<p>書名 社会科 中学生の公民 よりよい社会を求めて</p> <p style="text-align: right;">46 帝国</p>
<p>教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり</p>	<p>○章の導入でイラストや資料から読み取り作業を行なう「学習の前に」やシミュレーション仕立ての「連続コラム」などで、現代の社会的事象に対する関心を高めようとしている。</p> <p>○現在、将来に直面するであろう課題や解決に向けての取組を踏みこんで提示し、社会の諸問題に着目させ、自ら考えようとする態度を育てようとしている。</p>
<p>特色</p>	<p>内容</p> <p>＜基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫＞</p> <p>○見開き1単位時間では、「クローズアップ」で興味・関心を引き出し、「学習課題」につなげ、「確認しよう」で、基礎的・基本的な知識の確認を行う。また、「資料活用」では、地図やグラフなどの注目すべき点を提示している。</p> <p>○「技能をみがく」が「トライアル公民」に併記され学習の効果を高めている。</p> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成する工夫＞</p> <p>○毎時の「説明しよう」や単元の最後の「学習をふりかえろう」で知識を活用し、言語活動を行うようになっている。</p> <p>○「トライアル公民」では、対立と合意・効率と公正の視点から、意見をまとめたり、話し合ったりするための題材を7テーマ用意している。</p> <p>＜主体的に学習に取り組む態度を養う工夫＞</p> <p>○終章のレポート作成にむけて、本書全体にレポート作成のヒントやきっかけとなる「テーマ例」を示している。</p> <p>○「羅針盤マーク」では、未来の社会をつくるために参考になる6テーマ・20例にわたる取組を、「How to…」では将来に役立つ知識を、紹介している。</p> <p>＜民主主義に対する理解を深めさせる工夫＞</p> <p>○「第2部 私たちと民主政治」の中で「青果店を営む男性はどうなる～権利の保障と公共の福祉を考える」というテーマで、公共の福祉と人権の制限について理解を深めさせる学習が設定されている。その際、対立と合意・効率と公正の視点も活用している。各人権課題の資料も豊富に掲載されている。</p> <p>資料</p> <p>○資料として、日本国憲法をはじめとする26の「参考法令集」「さくいん」が掲載されている。巻末には、年表形式の「第二次世界大戦後の歩み」が掲載されている。</p> <p>○「地理・歴史をふりかえる」では地歴で学んできた語句を紹介し、「Yes No」では、あるテーマについて、賛成・反対意見を紹介している。わかりにくい用語については「解説」を施している。</p> <p>表記・表現</p> <p>○文体は、敬体（です・ます体）を用い、重要語句は太字で示している。また、本文中に、前出・後出箇所を示すページが示されている。</p> <p>○資料には見開きごとのまとまりで通し番号が付けられており、対応する本文の上に当該の図番号を付すなど使いやすさに配慮している。</p> <p>○ユニバーサルデザインによる配色やレイアウトをしている。</p>
<p>総括</p>	<p>○対立と合意・効率と公正に関わる学習では、「住みよいマンションにしていこう」をテーマに、マンションの問題解決を通して理解させるような構成になっている。</p> <p>○終章の「より良い社会をめざして」では、持続可能な社会の実現に向けてどのように行動すべきなのかをテーマに、レポートの作成から発表までの手順を示している。</p>

項目 \ 書名		中学社会 公民的分野 <div style="text-align: right;"> 116 日文 </div>
教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり		<ul style="list-style-type: none"> ○今日の課題を考えることができる教材（人権・環境・平和・防災・減災伝統と文化）を充実させることで、事実を正確にとらえて、公正に判断する能力と態度をはぐくもうとしている。 ○社会のしくみを具体的にイメージできる図版、新しい事例や身近で話題性のある事例の掲載などで、現代の社会的事象に対する関心を高めようとしている。
特色	内容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○見開き1単位時間では、「導入資料」をもとに「学習課題」を明示している。また、右ページの側注欄には「学習の確認」を設け、学習のポイントの確実な定着のための学習活動を提示している。 ○見開き内でポイントとなる言葉を枠で囲んで明示し、活用を促している。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○言語活動コーナーである「読み取ろう・考えよう・伝えよう」を設け、図版についての思考・判断・表現に関する活動のヒントを示している。 ○「アクティビティ」では、授業で取り組める18の具体的な作業学習を提示しており、学習を深化させることができる。 <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習内容を掘り下げ理解を深める「公民+α」、具体的なテーマを掘り下げて学習内容を多面的・多角的にとらえる「公民ズームイン」が設定されている。 ○社会参画・貢献の手がかりになる特設ページ「明日に向かって」を設け、生徒が将来に生かせる教材を用意している。 <p><民主主義に対する理解を深めさせる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「第2編 私たちの生活と政治」の中で、具体例を写真で示している「バリアフリーの社会をめざして―堺市を例に―」、クイズや新聞記事で構成した「ネット社会とつき合う方法」、ブレインストーミングや論理的な考え方を使った「表現の自由について考えよう」が深化の学習として設定されている。
特色	資料	<ul style="list-style-type: none"> ○巻頭には、「日本の現代史年表」、「現代の世界のようす」、巻末には、日本国憲法をはじめとする29の「法令集」、「用語解説」、「さくいん」が配置されている。 ○「連携コーナー」を本文左ページ脚注に設けて、地歴・小学校との関連を示している。
特色	表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○文体は、敬体（です・ます体）を用い、重要語句は太字で示している。また、本文中に、前出・後出箇所を示すページが示されている。 ○本文には、関連する図版番号を付して、図版資料との関連を図っている。また、見開き左側にインデックスを設け、学習の位置付けをわかるようにしている。 ○ユニバーサルデザインによる配色やレイアウトをしている。
総括	総括	<ul style="list-style-type: none"> ○対立と合意・効率と公正に関わる学習では、合唱コンクールの練習場所の割り振りをどうするのかという事例を中心に学習を展開している。 ○各編・章末「チャレンジ公民」では、習得した知識と対立と合意・効率と公正等の見方や考え方を活用する課題を設け、それらを生かして、最終第5編の「持続可能な社会」のレポート作成に役立つように工夫している。

<p>項目</p>	<p>書名</p> <p style="text-align: center;">中学社会 新しい公民教科書</p> <p style="text-align: right;">225 自由社</p>
<p>教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり</p>	<p>○「序章 現代日本の自画像」では、歴史の学習からの接続を意識しながら、現代日本の諸課題をあきらかにすることで、現代の社会的事象に対する関心を高めようとしている。</p> <p>○現代社会の特色や課題について基礎的基本的な内容を活用しながら考えることができるようになっており、自ら考える態度を育てようとしている。</p>
<p>特色</p>	<p>内容</p> <p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <p>○見開き1単位時間では、学習課題が明示され、資料を使いながら学びを進めていくようになっている。「ここがポイント」では、見開きに関するポイントを2～3の文章で端的に示している。</p> <p>○各章の終わりに「学習のまとめ」がおかれ、最重要語句が明示されている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○「学習のまとめ」で示された最重要語句を使って、100～200字でまとめる課題があり、学習の確実な理解を促している。</p> <p>○各章の終わりに「学習の発展」がおかれ、400字程度でまとめる記述式の課題が複数用意されている。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○重要なことがらを深く理解するためのコラム「もっと知りたい」が21ほど見開きで掲載されている。</p> <p>○36のコラム「ミニ知識」では、公民の重要な言葉や事柄を学習するうえでヒントになる記事が示されている。</p> <p><民主主義に対する理解を深めさせる工夫></p> <p>○「第3章 日本国憲法と立憲的民主政治」の中ではコラム「もっと知りたい」で、「権利の平等に関する問題」として部落差別問題と外国人参政権を扱い、「新しい権利」としてプライバシーの権利・知る権利・環境権を扱い、深化の学習としている。「日本人拉致問題」についても見開きで取り上げている。</p> <p>資料</p> <p>○巻末には、日本国憲法をはじめとする30の「参考法令集」、「さくいん」が配置されている。また、本文の中で、年表形式の「日本と世界の歩み」が掲載されている。</p> <p>○見返しでは、「世界に誇る日本の先端技術」や「わが国の領域」を写真とともに掲載している。</p> <p>表記・表現</p> <p>○文体は、敬体（です・ます体）を用い、重要語句は太字で示している。側注解説で補足解説や語句の解説をしている。</p> <p>○紙面はB版である。見開きの学習タイトルには、各章を貫く1～65の通し番号が振られている。</p> <p>総括</p> <p>○対立と合意・効率と公正に関わる学習では、学校生活におけるルールや学校の体育館使用に関する事例をあげている。</p> <p>○終章では、「レポートと卒業論文をつくろう」というテーマで、行ってみたい国を調べ紹介するレポートの作成と持続可能な日本社会をつくるために私たちは何ができるのかという卒業論文を作成する課題が示されている。</p>

<p>書名 項目</p>	<p style="text-align: right;">227 育鵬社</p> <p style="text-align: center;">新編 新しいみんなの公民</p>
<p>教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり</p>	<p>○冒頭に「地理・歴史・公民の概念図」を示し、「人生モノサシ—15歳からの自分の過去・現在・未来」に取り組むことで、自分の立ち位置を知り、現代の社会的事象に対する関心を高めようとしている。</p> <p>○現代社会の理想と現実を、本文・資料・コラムで示し、多面的・多角的に考察し、公正に判断するとともに適切に表現する能力を育てようとしている。</p>
<p>特 色</p> <p>内 容</p> <p>資 料</p> <p>表記・表現</p>	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <p>○見開き1単位時間を、導入資料で興味・関心を喚起し課題をつかむ、本文や図版・写真資料で内容を具体的に調べ理解する、「学習のまとめ」で学習内容の定着を図るというステップで構成している。</p> <p>○各章の「学習のまとめ」で重要語句が示されている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○各章の冒頭に、「法の入り口」といったような「〇〇の入り口」を見開きで設定し、その章の学習内容の趣旨をとらえさせる言語活動を設けている。</p> <p>○「学習のまとめ」に取り組むことにより、毎時間の学習の中で無理なく生徒の思考力・判断力・表現力をはぐくめるように工夫している。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○30のコラム「理解をふかめよう」や「考えよう」では、見開きの学習内容に関連する情報や発展的な内容を取り扱っている。</p> <p>○主体的な学習を促す「やってみよう」では、ディベート、シミュレーション学習、話し合いなどの学習を提示している。</p> <p><民主主義に対する理解を深めさせる工夫></p> <p>○「第2章 私たちの生活と政治」の中で、「男女の平等と家族の価値」、「ともに生きるためにできること」、「人種差別をなくすために」、「世界の人権問題」が深化の学習として設定されている。「北朝鮮による日本人拉致事件」も見開きで取り上げている。</p> <p>○巻末には、日本国憲法をはじめとする29の「参考法令集」、「さくいん」が配置されている。また、見開きで、年表形式の「戦後の日本と世界の主なできごと」が掲載されている。</p> <p>○新聞を活用した授業を促すために、新聞記事を多数掲載している。新しい資料も多く用いられている。学習内容に関連した情報も多数掲載されている。</p> <p>○文体は、敬体（です・ます体）を用い、重要語句は太字で示されている。本文中に、前出・後出箇所を示すページが示され、側注が設けられ補足説明がなされている。</p> <p>○資料には見開きごとに通し番号を付け活用しやすいよう配慮されている。</p> <p>○ユニバーサルデザインによる配色やレイアウトをしている。</p>
<p>総 括</p>	<p>○対立と合意・効率と公正に関わる学習では、文化祭の劇の主役を誰にするのかという事例を中心に学習を展開している。</p> <p>○終章は、「私は内閣総理大臣「持続可能な社会」を築いていくための国づくり構想を立ててみよう」という形式で、「持続可能な社会をめざす日本」をテーマにしたレポート作成に取り組むようになっている。</p>